

テーマ：ロイター短観（2013年3月）

発表日：2013年3月21日（木）

～景況感の持ち直しは続くが、実需の弱さを懸念する声も～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL：03-5221-4525

		製造業DI											非製造業DI							
		素材型					加工型						不動産・建設		卸売	小売	通信・情報サービス	運輸・電力	その他サービス	
		繊維・紙パ	化学製品	石油・窯業	鉄鋼・非鉄		食品	金属・機械	電機	輸送用機器	精密機器、その他									
2012	1月	▲5	▲4	0	▲5	▲12	0	▲6	17	▲10	▲29	14	7	6	▲15	6	8	8	0	22
	2月	▲11	▲8	▲9	0	▲12	▲22	▲13	0	▲28	▲29	14	8	5	▲5	18	4	▲8	0	18
	3月	2	4	11	5	▲12	14	0	▲9	▲8	27	0	5	▲16	17	0	13	▲9	24	
	4月	1	▲6	▲33	5	▲15	0	6	33	5	▲9	15	7	10	10	6	▲15	7	0	42
	5月	2	2	0	4	0	0	3	20	3	▲6	12	0	11	0	9	0	27	▲8	38
	6月	▲3	▲2	9	▲5	0	▲11	▲4	20	▲3	▲12	0	0	11	0	16	11	37	▲3	13
	7月	▲2	0	▲9	10	▲15	0	▲3	0	0	▲13	5	0	8	▲9	23	13	16	▲8	16
	8月	▲4	▲5	▲9	0	0	▲12	▲4	0	▲4	▲10	0	9	8	0	28	▲5	14	▲4	17
	9月	▲5	▲6	▲9	▲13	0	11	▲5	25	▲4	▲13	6	▲7	7	▲9	12	▲5	20	▲4	26
	10月	▲17	▲13	▲20	▲17	0	0	▲20	0	▲18	▲27	▲11	▲25	7	▲9	15	0	10	▲4	25
	11月	▲19	▲15	▲18	▲19	0	▲13	▲21	20	▲32	▲28	▲24	0	1	0	6	0	10	▲20	14
	12月	▲18	▲14	▲17	▲19	0	▲11	▲20	20	▲22	▲34	▲17	▲9	5	10	5	▲5	14	▲13	18
2013	1月	▲17	▲15	▲30	▲9	0	▲22	▲18	20	▲20	▲25	▲19	▲9	10	9	18	5	29	▲16	25
	2月	▲13	▲15	▲36	▲4	▲15	▲13	▲11	20	▲19	▲26	6	0	8	9	25	▲5	7	▲17	29
	3月	▲11	▲14	▲30	▲10	▲16	0	▲10	20	0	▲28	▲6	0	12	0	20	14	33	▲21	30
3ヵ月後見通し		4	0	▲30	16	33	▲22	5	40	5	11	▲6	▲10	29	36	40	28	40	▲5	42

(出所) ロイター「ロイター短観」

○製造業DI：持ち直しは続くが、緩慢な回復といった印象

3月ロイター短観（調査期間3月4日～3月18日）の製造業DIは▲11（2月：▲13）と前月から改善した。「円安により収益力が改善した」（機械）というコメントの通り、引き続き円安の進展が景況感の押し上げ要因となったようだ。製造業DIはこれで4ヶ月連続の改善となり、景況感の持ち直しが明確となっている。ただ、年末から円安が急ピッチで進んできた割には景況感の持ち直しは緩慢なものにとどまっているという印象は否めない。コメントをみると、円安による輸出採算の改善といった恩恵を受けつつも、「中国をはじめとして需要が戻っていない」（輸送用機器）、「半導体産業界がまだまだ低調」（電機）というように実需の回復の鈍さを懸念する声が目立つ。また、円安を背景とした輸入コストの上昇を懸念するコメントもあり、こうした実需の弱さや輸入コストの上昇が景況感の回復を緩慢なものにとどまらせているものとみられる。

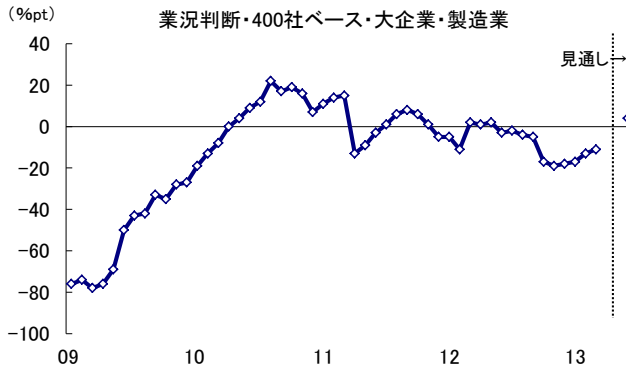
3ヶ月後の見通しは+4と3月実績（▲11）から一段の改善が見込まれている。懸念されている実需に関しては、これまで景況感を下押ししてきた輸出の悪化、国内自動車販売の減少に足元改善の動きが窺える。国内自動車販売についてはこれまでの需要先食いの規模が大きいため、先行きも販売が順調に回復していくかどうかについては慎重に見る必要があるが、輸出については海外経済の回復に伴い持ち直しに向かうことが予想される。円安の輸出に対する数量効果も徐々に顕在化してくるだろう。円安による原材料高といった懸念はあるものの、総じて製造業の景況感は回復傾向が続く可能性が高い。

○非製造業DI：復興需要や株高等を背景に高水準で推移

非製造業DIは+12（2月：+8）と改善し、引き続き高水準での推移となった。非製造業DIは昨年の夏場以降やや息切れ感がみられていたが、ここ数ヶ月は再び持ち直しに転じている。業種別にみると、不動産・建設が今月こそ悪化したものの住宅ローン金利の低さや復興需要等で改善傾向を保っていることに加え、その他サービスも高水準での推移が続いている。小売も株高等による消費マインドの改善を背景に足元持ち

直しの兆しが窺える。

3ヶ月後の見通しは+29（3月実績：+12）と大幅な改善が見込まれている。足元の株高や政府による経済対策への期待感などから、すべての業種で一段の改善を見込んでいる。期待先行の面が強く、実際に見通し通りの大幅な改善となるかは疑問であるが、経済対策による公共投資の増加、株高等による消費マインドの改善等を背景に非製造業の景況感は良好な水準が続く可能性が高いだろう。



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」



(出所)ロイター「ロイター短観」